

# 2010年度 入試問題分析シート

名古屋大学

前期日程

科目

地理

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	文 200点, 情報(社会) 400点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

問題 ・ など易問は増えたが、問題 の地形図・等温線図の作図問題、問題 の時間計算など、答案作成に手間がかかる問題が多く、時間配分を誤った受験生は十分実力を発揮できない状況に追い込まれたであろう。問題 では、解答する内容に比べて解答欄のスペースが極めて不足しており、かなり答案を作成しにくかっただろう。

<特記事項・トピックス>

地形図、等温線図の作図が出題された。  
衛星画像を利用した出題が見られた。

<合格への学習対策>

様々な分野から出題されるため、教科書、地図帳、資料集などを活用して、基本事項を中心に、幅広く学習しておきたい。作図問題が必出なので、世界全図、各地域図で大陸や島嶼などの輪郭や、主要河川・山脈・都市の位置を確認して、ポイントを押さえて要領よく描図する練習をしておくべきである。地形図の描図のためには、地図記号をしっかりと覚えておくことが必要である。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
	描図・論述	地形図、気候	地形図の作成、等温線図の作成、等温線図の特徴とその要因	易
	選択・論述・記述	交通	輸送機関の判定、各輸送機関の特徴、特徴に違いが生じた理由、航空貨物の種類と理由、ハブ空港の例、ハブ空港の意味、アジア各国がハブ空港建設を進める理由、標準時の時差、航空便の到着時刻、3都市周遊に利用する便名、航空便の所要時間で差が生じる理由	標準
	記述・論述	エネルギー	原油生産量・輸入量統計からの国名判定、アメリカ合衆国・中国・日本の原油生産量・輸入量の変化の要因、韓国・インド・日本の一次エネルギー輸入量と一人当たりエネルギー消費量の変化の特徴、発電方式の判定、ドイツ・フランスの原子力発電に対する姿勢の違いとドイツにおける自然エネルギーの利用	やや難
	記述・論述・選択	地形、気候、農牧業	衛星画像からの河川の特異性、植生・土地利用などの違い、灌漑方法とその利用、灌漑により生じる問題、アメリカ合衆国における地域判定	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。